社会福祉法人ゆたか福祉会広報

ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

2024
No.497

障害者のゆたかな未来をめざして 6

「雨がベストフレンドのあじさい」デイサービス宝南 伊吹 紀子さん
※紹介が11ページにあります。

CONTENTS

▶ 私たちの実践　地域でのあたりまえの暮らしを 広げ・支え続けて… P2～3
▶「住み慣れた設楽町で、ずっと暮らしたい」の願いに応えて… P4～5

2024年6月10日　毎月1回10日発行　一部200円（法人会員･賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会　〒457-0852　名古屋市南区泉楽通四丁目５番地３
TEL 052-698-7356　FAX 052-698-7358　http://www.yutakahonbu.com/

愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会　検索

シリーズ 私たちの実践

地域でのあたりまえの暮らしを 広げ・支え続けて

～ゆたか通勤寮の35年～

新たな実践・事業を目指して

1989年4月『精神薄弱者ゆたか通勤寮』が開所しました。

ゆたか福祉会では、すでに5か所の作業所を開所して地域の働く場を広げ、さらに入所施設、福祉ホームなど、暮らしの場の支援も広がりはじめている時期でした。

このような中でゆたか通勤寮は、「障害者の就労とくらしのネットワーク」をスローガンに、地域生活をめざし・支える機能を持つ施設として誕生しました。

背景には18歳で児童養護施設を出て、次の行き先に困っていた軽度の障害がある皆さんが、安心して働き・暮らすための自立を目指す場として、名古屋市からの強い要請もありました。

こうして、ゆたか福祉会内で一般就労と地域生活をめざす方々や、児童養護施設を出られた皆さんが、大きな希望を抱いての利用が始まりました。

現在までに245人の方に入寮いただき、内、児童養護施設から36%、大人の施設から17%、あとは自宅からの利用でした。卒寮者は232人、内訳はアパート生活25%、グループホーム47%、自宅へ戻られた方19%、施設へ行かれた方が5%となっています。

地域での暮らしを広げ・支えて

通勤寮は一定の期間に、地域で暮らすための力を付け、巣立っていかなければならない施設です。そして、卒寮後の安心できる暮らしの場も確保しなければなりません。しかし当時はまだグループホームも数えるほどしかなく、アパート暮らしをするにしても、ヘルパーも給食の宅配も、権利擁護の仕組みもありませんでした。切り拓いていくしかない時代でした。

1999年から1998年の間に、通勤寮の周辺に8か所のグループホームを次々とつくり、通勤寮の仲間を送り出し、地域での暮らしも通勤寮が軸となり支えてきました。

当時のグループホームの制度は、本体施設の支援が前提となっており、通勤寮が本体施設となって運営するには、グループホーム8か所は限界を超えていることが表面化してきました。通勤寮の仲間への支援自身も大変な中、それぞれのグループホームでも、支援や運営上の困難にぶつかり、2000年代に入ると「もうこれ以上グループホームを増やしても運営ができない！」という声が聞かれるようになりました。

その後「通勤寮生まれのグループホーム」と、「作業所生まれのグループホーム」をブロック化し、責任者を配置するなど、自立的運営の工夫を重ねてきました。2006年、障害者自立支援法の制定を受け、更に法人組織の中に「地域支援事業本部」を置き、16か所のグループホームを4つの事業所に分け、自立的運営がより可能となるようにしました。現在は8事業所35か所のグループホームとなっています。

アパート暮らしの仲間を広げ・支えて

2000年代のグループホーム新設の行き詰まりは、寮の利用者の行き先の悩みに直結し、模索の一つとしてアパート生活支援が始まります。

ゆたか通勤寮

開所時から1999年までの地域移行先がアパートの方は8人で、通勤寮が直接支援している方は3人でした。2000年から2009年の間には20人に増え、通勤寮が日常支援した方は12人となっています。

全国の通勤寮の実践にも学び、まずは卒寮が近い仲間2人のアパートでの共同生活から始めました。食事は通勤寮で朝夕提供し、困った時はいつでも相談ができるようにしました。お金は通勤寮で管理し、アパートにもたびたび訪問するなどの中で定着し、アパート生活者が広がっていきました。

居宅事業のヘルパーや宅配弁当、権利擁護の制度や事業が充実する

中で、アパート暮らしへのハードルも徐々に低くなりました。また、2012年には、ゆたか通勤寮に相談支援事業所が置かれ、地域定着支援を行えるようになりました。

移行できる仲間はさらに増え、2010年から2024年3月迄に、アパートでの暮らしを始めた方は30人にのぼりました。現在、通勤寮の地域定着支援を利用している仲間は22人となっています。

「困った時には、通勤寮に行こう！」と思ってもらえる事業所に

ゆたか通勤寮は2012年4月、宿泊型自立訓練事業に変わりました。利用者の障害種別が拡がったことと、利用期限が厳密になったこと以外は、事業目的や内容は大きくは変わっていません。

1人1人の仲間が地域の中で安心して暮らし続けられるように、今を支援することが何より大事と考え、日々の支援を組み立てています。「仲間本人を知ることは至難の業、仲間本人をよく知ること、また仲間が、職員や通勤寮を相談相手として意識してくれた時、卒寮後も続く関係づくりの一歩が踏み出せる」という先輩の言葉があります。

卒寮式・自立宣言式

入寮前には、家族、施設、児童相談所、学校、本人からの聞き取りに基づく、基礎資料つくりを念入りに行います。そして入寮後には、障害・習慣・能力を把握するための3つの調査、地域生活への希望アンケート、実践のまとめなどから、仲間の事をよく知ることを重視しています。

日常の生活支援、就労支援、金銭管理支援、自立講座①健康講座、②性の教育講座、③地域生活講座、仲間の自治会の取り組み（年間8行事含む）などを通じて、仲間の事をさらに深く知ることと、この間に生起する様々なトラブルをともに乗り越えるという葛藤解決のプロセスの中で、さらに信頼関係を積み重ねます。

2年から4年の期限のなかで、仲間が相談相手として意識してくれるまでの信頼関係をめざします。それぞれの希望に沿って、次の暮らしの場への移行を相談支援事業所と連携して支援しますが、その後の暮らしの中でも変化や失敗・困り事は必ず起こるので、引き続きの支援が必要な方がほとんどです。

困った時には「通勤寮に相談に行こう」と思ってもらえる場所であり続けることが、通勤寮に求められている大事な役割と考えています。

自立講座「地域での生活を考える」

現在の課題

障害者権利条約19条では「障害者が他の者との平等を基礎として、居住地を選択し、及びどこで誰と生活するかを選択する機会を有する事、並びに特定の生活施設で生活する義務を負わないこと」と言われています。

ゆたか通勤寮が開所した頃に比べれば、地域での暮らしは大きく変わってきましたが、障害者が地域で1人暮らしをするには、まだまだ支援環境が貧弱です。

また一方では、グループホームの激増に伴い、通勤寮の利用希望が減っており、事業継続が難しくなっています。利用期限があること、建物や居室が古く狭いことが、ネックになっています。

宿泊型自立訓練の定員は制度上20名以上であり、事業継続を考えるとグループホーム化や、建物の建替え又はリフォームの検討が課題となっています。障害者の暮らしの場の地域移行と、暮らしを支えるという役割は堅持し、更なる模索を続けたいと考えています。

寮長　熊谷 由美子

「住み慣れた設楽町で、ずっと暮らしたい」の願いに応えて

～生活サポートセンター名倉の事業～

はじめに

「生活サポートセンター名倉」は2013年度に、居宅介護支援事業所と障害者相談支援事業所を開所し、介護保険分野と障害分野の相談支援事業がスタートしました。また、地域づくりの取り組みを業務として位置づけ、「ふれあいサロン」や「ロコモ健康教室」などの開催への協力を行ってきました。

「ふれあいサロン」は、立ち上げにも関わり、事務局としての役割を担いつつ、10年近くを運営してきました。2018年度にはこれまでの取り組みをさらに進めていくために、設楽町から「生活支援体制整備事業」の生活支援コーディネーターを受託しました。

生活サポートセンター名倉のメンバー

設楽町内の多様な社会資源の把握に努め、地域における高齢者の生活支援や介護予防サービス提供体制の構築に向けて取り組んでいます。

認知症高齢者や精神障害者が増加する中、誰もが尊厳のあるその人らしい生活を継続できるように取り組みを進めています。2024年1月には、地域で支え合う体制作り、成年後見制度の利用促進を目的として、「設楽町権利擁護支援センター」を開設しました。この事業は、設楽町からの委託によりスタートし、現在は、それぞれの仕事に加え、チームとして連携を強めながら、地域の課題に向き合い、地域づくりをすすめています。

ロコモ健康教室

居宅介護支援事業所

設楽町名倉地区は、山々に囲まれた自然豊かな中山間地域です。名倉地区にはのどかな田園風景が広がり、稲作のほか、トマトやとうもろこしなども生産しています。しかし、設楽町の人口減少率は、常に全国上位で、65歳以上の高齢化率が半数を超え、少子高齢化が深刻な地域課題です。

設楽町で生活を送ってきた高齢者にとって、地域住民同士で支え合ってきた歴史や絆は大切なものです。だからこそ、「住み慣れた設楽町で、ずっと暮らしたい」という思いが人一倍強いと感じます。そういった本人や家族の思いを汲み取ることが、ケアマネの仕事です。

介護が必要になった人と介護サービスをつなぐ専門職。高齢化・過疎化が進むこの地域で、利用者やその家族が希望する生活の実現に何が必要か、利用者や家族、関係者とともに考えながら支援していきたいと思います。

障害者相談支援事業所

相談支援事業所は、現在2名体制（1名は権利擁護支援センターと兼務）で、相談支援を行っています。それぞれ施設職員、保健師と異なる経験を活かしながら、地域や施設で暮らす利用者の方々の相談に乗っています。

障害分野の社会資源は「キラリンとーぷ（入所、生活介護、相談）」「社会福祉協議会（相談居宅介護）」「地域活動支援センター」の3事業のみ。町内で解決できないニーズも多く、東三河北部圏域（新城市、設楽町、東栄町、豊根村）を中心に、山越え、谷越えをしながら支援をしています。

地域で暮らす障害者児も多くはないため、ひとり一人に寄り添いやすい条件があります。ニーズに合わせて制度の枠組を広げたり、行政を含む関係者と共に考えていけるなど、

小さな町ならではの強みです。

「就労支援事業所」や「グループホーム」など、もっと福祉サービスがあれば、設楽町で暮らし、障害者の自立への選択肢が大きく広がるといつも感じています。新たな社会資源を開発するためには何が必要なのか、今ある社会資源をもっと活かせないのか、諦めずに可能性を探っている所です。

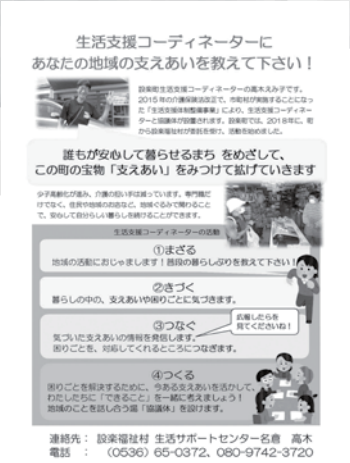
生活支援コーディネーター

少子高齢化に伴う介護の担い手不足を背景に、２０１５年介護保険法改正では「生活支援体制整備事業」を市町村が実施することになり、生活支援コーディネーターが配置されました。

その役割は、齢を重ねても安心して暮らせる地域を目指して、地域の支えあいを拡げ、不足する生活支援の資源を創ることです。超高齢社会を迎えた設楽町。介護サービスは十分ではありませんが、昔ながらのご近所づきあいが残り、住民は助け合って暮らしています。新たな資源を創る前に、これまで行われてきた地域の支えあいを把握し、活かすことが必要です。

まずは地域におじゃまし、暮らしを支えるつながりを教えていただき、町の広報誌で紹介することを中心に活動してきました。住民が自分たちの暮らしに自信をもち、支え合いが拡がっていくきっかけになればと願っています。

今後もこのような活動を通してつながりを拡げ、「ここで暮らし続けたい」という思いをかなえるため、私たちに今できることを住民と共に考える機会をもうけていきたいです。



設楽町権利擁護支援センター

「設楽町権利擁護支援センター」は、「成年後見制度利用促進基本計画」に明記された中核機関の業務を担うセンターです。全国的には社会福祉協議会や自治体を超えて広域的に設立されたＮＰＯ法人に委託する自治体が多く、社会福祉協議会以外の社会福祉法人が委託を受けたことは異例だと思われます。

中核機関は、令和４年３月末の設置が全自治体に義務化されました。設楽町を含む北設３町村は、対象人口の少なさや担い手不足などの課題があり、結論が出ない状況が続いていました。こうした中で、ゆたか福祉会から委託を受ける事が出来る旨の申し出をしたことが、受託するきっかけになりました。

業務開始から５ヶ月。「設楽町権利擁護支援センター」の存在を知ってもらうためのパンフレット作りや、町内施設への設置依頼など、広報活動を最優先に進めています。

少しずつ相談も入っていますが、今後は、協議会の開催や申立て等の支援、利用促進のためのネットワーク作り、支援者の養成等、必要なことを一つずつ形にして、設楽町の権利擁護支援体制を構築していきたいと思います。

これからのとりくみ

ゆたか福祉会が名倉の地に設楽福祉村を開所して、25年が経過しました。「生活サポートセンター名倉」も、高齢・障害・生活支援コーディネーター・権利擁護と、地域の実情を集約できる体制が整えられてきました。少子高齢化、過疎化が進む設楽町に、ゆたか福祉会の事業所がある事は、意義深い事だと感じます。

今後ますます、高齢者や障害者に対する支援だけでは解決できないような、複合的なニーズへの支援体制が求められてきます。２０２４年度は、新たに設楽町から「認知症カフェ」の委託を受け、名倉地区で初開催に向け、福祉村全体で準備を進めています。認知症というテーマを通して、自分らしく住み続けられる地域づくりを、みんなで考えていければと思っています。

私たちは、法人の基本理念にもある「誰もが安心して暮らせる地域をつくるため、たくさんのつながりを築き拡げていきます」を実践する職種として、地域の皆さんと共に今できる事を考え、一つひとつ積み重ねながら、ひとり一人の思いを形にしていけるように、取り組みをすすめていきます。

暮らしの中に彩りを

わかばホーム　ディズニーリゾート二泊三日の旅行

◆ゆたか生活支援事業所なるお◆

〈思いっきり楽しめる旅行に〉

「わかばホーム」は一般就労の仲間が生活をされているホームです。スーパー、学校の業務支援室、リネンのクリーニング業務を行う工場など、就労先は様々です。

以前からディズニーが好きな仲間がいて、「ディズニーランドに行きたい！」と要望が出ていました。しかし、コロナ禍の影響もあって、泊りでの旅行はこれまでなかなか実現できませんでした。お金のことなども考えると、気軽に行けるところではありません。コロナの落ち着いてきた今のタイミングであれば「行けるのではないか！」ということで、満を持して行くことを決めました。

「行くのであれば、思いっきり楽しめるものにしたい！」との思いから、ショーもアトラクションも楽しめるプラン（バケーションパッケージ）で仲間と計画を立てていきました。仲間の中には 10 年以上行っていない方もいて、行く前からとても楽しみにされていました。

〈お別れ会も兼ねて〉

「事業所なるお」の仲間の引っ越しに伴い、「わかばホーム」でも定年退職を迎えられた梶野さんが「ゆたか鳴尾寮」に引っ越しをされました。今回の旅行については、梶野さんが“わかば”の仲間と最後の旅行になるため、「梶野さんのお別れ会も兼ねよう」ということになりました。梶野さんや職員含めて６名でのワクワク旅行です。

〈念願のディズニーランド＆ディズニーシー〉

一日目と三日目にディズニーランド、二日目にディズニーシーをそれぞれ回りました。

ミッキーやミニーをはじめ、たくさんのキャラクターと会うことができ、写真を撮ったり、お土産を購入したり、船や鉄道に乗って景色を楽しまれたりなど、それぞれ思い思いに過ごされていました。

また、「美女と野獣」のアトラクションや、「ソアリン・ファンタスティック・フライト」「トイ・ストーリー・マニア」などの人気アトラクションにも、チケットを取っていた為、待ち時間無く乗ることができました。そのほかにも様々なアトラクションに乗りました。

特に「ソアリン・ファンタスティック・フライト」では、乗っている間に世界の様々な名所が映像として出てきます。「あれはどこ？」「これ○○（場所の名前）だよね」といった会話が出たり、夕食で行ったレストランでも、仲間から「世界一周した気分になった」との感想が出たりと、皆とても楽しまれた様子でした。

〈パレードやたくさんのショーを楽しんで〉

ディズニーランドでは、夜のパレードが当日強風で中止になってしまい、見ることができませんでした。それでも昼食時にちょうど昼のパレードがやっていて、見ることができました。ディズニーシーでは新エリア開業前の特別バージョンになっていたショーを、昼も夜も見ることができました。

携帯で写真を撮ったり、レストランでは、新エリアの開業を記念して「塔の上のラプンツェル」をテーマにしたデザートが出てきて堪能したり…。３日間、全体を通してかなり充実したものになったのではないかと思います。「今後も続けていけたらいいな」と感じました。

井上 樹穂

春を満喫！

◆デイサービス宝南◆

４月９日・10 日・11 日の３日間、それぞれお花見に行きました。

９日は車内にて南区内の公園などの見物をされました。車から降りずに車窓からのお花見となりましたが、風が強くふき桜吹雪が舞い、車内からでも楽しめるお花見となりました。

10 日・11 日は荒子川公園までお出掛けをし、桜並木を見ながらお散歩をされたり、ベンチでゆったりとお話をされながらお花見を楽しみました。

南区内は葉桜が多く見られましたが、荒子川公園にはしっかりと桜が残っていました。少し風が冷たく感じましたが、天気も良く、行かれた方々はとても喜んでいらっしゃいました。

来年もまた皆様と、お花見ができる事を楽しみにしています。

◆つゆはし作業所◆

作業所の新年度は、毎年お花見の会から始まります。

例年はお茶の先生や友の会の方々を招き、公園の桜の下でお茶会を行っていましたが、この数年はコロナ禍により、班ごとで行っていました。

５年ぶりの花見の会！なかまたちは、とても楽しみにされていました。地域の和菓子屋さんで、練り切りを注文し、道具の準備も。ところが当日は雨…残念ながら室内で行いました。

古い仲間たちが先生となり、困っているなかまにそっと手を添えて、お抹茶の立て方やおもてなしの作法などを伝える場面も。久しぶりの交流会で、なかまたちの素敵な様子を見ることが出来ました。

お世話になっている給食の配達さんに「おもてなしをしたい」との声があがり、お抹茶をもてなし、ホーム職員も参加して下さり、和やかに進みました。終盤では職員によるウクレレ演奏で、「おどるポンポコリン」をみんなで合唱し、盛り上がりました。

数日後、桜が満開となり皆さんと記念撮影♪恒例の新しい職員さんの歓迎を兼ねて、ギター演奏で「おくりもの」を合唱しプレゼントしました。最後はなかまの号令で三本締め。タタタン！タタタン！と満開の桜の中、響き渡るなかまの笑い声で、新年度のスタートをきることが出来ました。

高階 清美

4.17 キラリンズ VS まーぶるず

ボッチャ エキシビジョンマッチ

はじめに

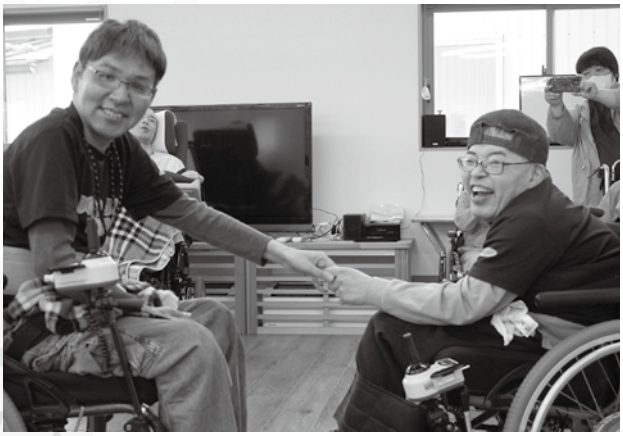
グループハウスなぐらと第2ゆたか希望の家が統合して1年が過ぎました。職員同士でお互いの施設の近況を話していると、まーぶるに移行した利用者が「キラリンとーぷの職員や利用者に会いたい」と言っていると知り、再会の機会を持つ事になりました。せっかくなので「ボッチャをやろう」と話が盛り上がり、そこからはトントン拍子に話が進んでいきました。

両施設にボッチャチームを作り、親善試合を設定。親善試合ですが、施設全体の雰囲気や利用者の気持ちを盛り上げるようにポスターを作製しました。

久しぶりの再会

試合当日は〝親友との久々の再会〟といった雰囲気で職員も利用者も大喜び。会うのは1年ぶりでしたが、そんなふうには全く感じない、和やかな温かい雰囲気の中、試合が始まりました。

試合は選抜チーム同士によるガチンコ対決。和やかムードの職員をよそに、利用者は真剣そのもの。「今のは反則だ」「足が線から出ていたよ」と、とことん勝負にこだわる様子を見ているうちに、職員もだんだんと真剣になっていきました。



ボッチャには上肢に障害があり、投球する事が難しい方のサポートをする自助具として、「ランプス」というガイドがあります。補助員がそれを持ち、プレイヤーが口頭で指示を出し、投球する事が出来ます。

今回のエキシビジョンマッチで1番印象に残っているシーンが、このランプスを使う場面でした。試合中、キラリンズの投球場面でトイレ支援が重なり、試合は一時中断。そんな場面でキラリンとーぷの利用者の投球、それもランプスを使う利用者。その時何も言わずに、まーぶるの職員が補助に入ってくれたのです。

お互いに初対面でもお手伝いさせて頂く、障害の有無は関係なく〝困った時はお互いさま〟という気持ちが自然と生まれていました。両者とも勝利にしたい微笑ましい気持ちを押さえながら、最後に勝敗をコールして終わりました。

試合後は一緒に昼食を食べました。まーぶるからのリクエストメニュー中心のご飯を食べながら、互いに健闘をたたえ合い、名古屋での生活の様子を聞いたりと、終始笑い声の絶えない楽しい時間でした。

試合後の感想でKさんは「また絶対やりたい！おれが行ってもいいけど、今度はまーぶるに来てもらおうか」、代表で挨拶をしたAさんは「緊張した。でも勝てた時は嬉しかったなぁ。また福祉村に乗り込むぞ！」と、久しぶりに帰り、楽しんだ様子が伝わりました。名古屋での生活も充実し、楽しんでいる様子も知ることが出来、今回の親善試合は大成功でした。次回は名古屋で「ゆたカップ？」「まーぶる杯？」皆さんすでに次回の開催が待ち遠しい様子で日々過ごしています。

キラリンとーぷ　夏目 晃忠

ゆたか福祉会　2023年度工賃（賃金）実績報告

		2023年4月1日現在の定員	2023年度平均利用者数	2023年度平均工賃（月額）	2022年度平均工賃	増減 2023-2022	工賃向上計画 2023年度目標	工賃向上計画 2024年度目標
就労継続支援Ｂ型	ゆたか作業所	15	8.7	36,686	29,904	6,782	34,091	37,042
	なるみ作業所	10	4.9	25,031	19,923	5,108	21,000	26,596
	つゆはし作業所	10	11.9	24,368	22,655	1,713	21,970	25,100
	ワークセンター フレンズ星崎	15	15.2	65,609	59,260	6,349	64,444	67,222
	トライズ	15	11.4	37,244	29,549	7,695	32,738	37,879
	リサイクル港作業所	40	29.2	64,923	60,129	4,794	53,846	66,091
	リサイクルみなみ作業所	35	30.0	88,148	75,312	12,836	82,222	88,794
	小　計	140	111.3	60,142	53,284	6,858		
生活介護	ゆたか作業所	40	25.7	9,533	9,118	415		
	なるみ作業所	30	28.4	4,073	4,455	-382		
	つゆはし作業所	20	17.4	9,915	7,590	2,325		
	ワークセンター フレンズ星崎	15	13.7	9,991	8,043	1,948		
	みらいろ	30	13.8	3,974	4,565	-591		
	みのり共同作業所	30	29.8	16,170	15,245	925		
	ふれあい共同作業所	30	28.5	5,209	4,160	1,049		
	あかつき共同作業所	30	29.3	11,547	9,851	1,696		
	小　計	225	186.6	9,076	8,122	954		
移行支援	ワークセンター フレンズ星崎	6	3.3	10,646	13,375	-2,729		
就労継続Ａ	トライズ	15	12.0	223,833	184,960	38,873		
	総　計	386	313.2	35,468	32,930	-		

・今回の報酬改定において平均工賃月額の算定方法が見直され、従来の工賃支払対象者数を用いた方法から平均利用者数を用いた算定式に変更されました。

・新たな算定式の影響もあって平均工賃は、2022年度と比べて就労継続Ｂ型、生活介護ともに増加しました。

・就労継続Ｂ型事業所では7か所全てが工賃向上計画にかかげた目標工賃を達成しました。ひきつづき工賃を引き上げていくために第５期目（2024～2026）にあたる工賃向上計画を策定したところです。

新副所長・正規採用職員 紹介

５月１日付けで副所長に任命した職員と、６月１日付けで正規職員として入職した２名を紹介します。

副所長

つゆはし作業所

石田 和久

「人事は突然に！」思わぬ辞令に、この言葉が当てはまりました。

作業所には月に数回、会議のために戻ることしかないなかでの副所長昇進に、不安よりもワクワクのほうが大きいです。これまでの功績を評価されての人事には「はいかイエスと喜んで」しかありません。

２年前、広報誌の職員紹介では「自称、ゆたか１恵まれし職員」と名乗っていましたが、これからは「自称、ゆたか福祉会のワクワクリーダー」として、外側のチャレンジをしていきます！

☺ 趣味・好きなことをお聞きしました

みのり共同作業所

伊豆 明子

☺旅行、カラオケ

ゆたか福祉会との出会いは、勤務されている知人のご紹介で入職に至りました。

今までの経験を活かし、先輩職員に学びながら、細く長く頑張って行きたいと思っております。

宜しくお願い致します。

2024年度 資格取得者 紹介

介護福祉士　西川 智佐子

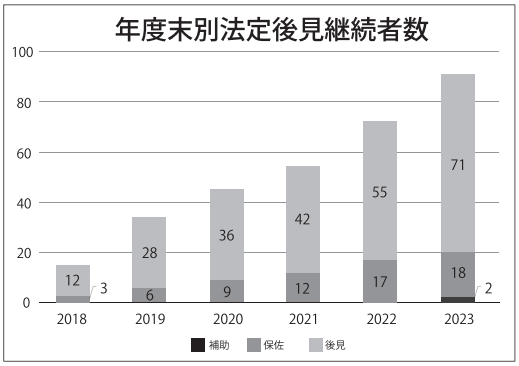
保育士　太 田　実 里　　小林 みのり

「もやい」が認定NPO法人になりました。

特定非営利活動法人成年後見もやい　理事　塚本 道夫

ゆたか福祉会の親・家族のみなさんの「親なきあとのわが子の暮らし」についての関心が高まる中、2017年9月に、社会福祉法人、障害者団体、親・家族の参加のもとで、NPO法人成年後見もやい（以下「もやい」）の設立準備会が開催されました。※1

その後、名古屋市からNPO法人の認証がなされ、2018年4月から本格的に事業を開始し、2023年度末現在、後見71件、保佐18件、補助2件の後見等の事務（※1）を行っています。



認定NPO法人に認定される

3月29日付で、名古屋市から待望の認定NPO法人の認定の通知書が届きました。認定NPO法人とは、運営組織及び事業活動が適正であって公益の増進に資するものとして、所轄庁（名古屋市）から認定を受けたNPO法人です。

もやいの収入の約9割は、一年間の後見等事務実施後に、家庭裁判所が決定する被後見人等からの報酬額です。したがって、最初の一年間はこの報酬額はなく、団体会員、個人会員の皆さんの会費・寄附金のみでの運営は厳しく、他事業所へのダブルワークもせざるを得ませんでした。数年前から認定NPO法人になるために、賛助会員や受任者数の拡大、財務整理の適正化、情報公開等に努めてきましたが、「やっと、ここまで来たぞ」というのが実感です。これも、心あたたまる、みなさんのご支援・ご協力の賜物であり、改めて、心からお礼を申し上げます。

社会的信頼性が向上。引き続きご支援・ご協力を

認定NPO法人は、「より客観的な基準において、高い公益性をもっている」ことが判定されたNPO法人であり、社会的信頼性、認知度が必然的に高くなると同時に、認定NPO法人には「税制優遇」（※2）のメリットがあります。もやいのような法人後見実施団体は運営状況が厳しいのが現状です。しかし、比較的長期間の後見等の利用が想定される障害者のニーズや関係機関からの支援困難事例への対応依頼は今後も増加します。みなさんには引き続き大きなご支援・ご協力をよろしくお願いします。

もやいは社会福祉法人、障害者団体、親の会等との共同のとりくみでつくられました。障害者の意思決定支援を基本とし、その権利擁護と真の共生社会をめざして奮闘していきたいと決意を新たにしています。

※2
認定NPO法人への税制優遇
①個人が認定NPO法人に寄付をした場合▼寄付金控除または税額控除が受けられます。
②企業等の法人が認定NPO法人に寄付をした場合▼損金算入限度額の枠が拡大されます。
③相続人が認定NPO法人に寄付をした場合▼寄付をした相続財産が非課税になります。
④認定NPO法人自身が法人税法上の収益事業を行った場合▼「法人税の軽減措置」を利用できます。

賛助会員新規加入者・更新者ご芳名一覧

（3月22日～4月24日　手続き分）　順不同 敬称略

石崎　満
鈴木　鐵也
星野　信子
丸山　了治
室田美知代
岡本　守

日誌　4月

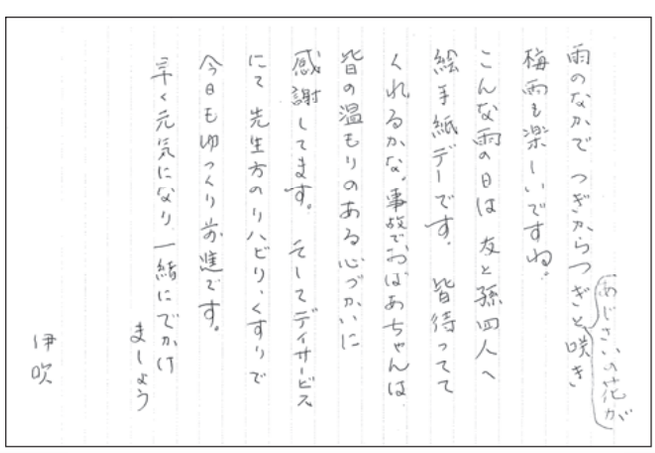
3日(水)	広報・ホームページ編集委員会
6日(土)	職員集会
15日(月)	事業運営推進会議
22日(月)	トータル人事システム検討委員会
23日(火)	懲罰委員会
24日(水)	所長会議
30日(火)	研修部会議

表紙の作者紹介

「雨がベストフレンドのあじさい」

デイサービス宝南　伊吹 紀子さん

2022年からデイサービスを利用している伊吹さん。
頑張り屋で何事にも一生懸命、明るい表情で周りの雰囲気を和ませてくれます。あじさいの絵はそんな伊吹さんらしさを感じさせる優しい色の作品です。


雨のなかで　つぎからつぎと咲き
梅雨も楽しいですね。
こんな雨の日は　友と孫四人へ
絵手紙デーです。皆待ってて
くれるかな。事故でおばあちゃんは
皆の温もりのある心づかいに
感謝してます。そしてデイサービス
にて　先生方のリハビリ、くすりで
今日もゆっくり前進です。
早く元気になり　一緒にでかけ
ましょう
伊吹

広報・497号

2024年6月号（2024年6月10日発行）
定価1部200円
法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 ／ 社会福祉法人ゆたか福祉会
印　　刷 ／ 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 ＝ 年間1口6,000円、
賛助会員（個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円）

●銀行口座　名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行　柴田支店　普通預金 291-884
・中京銀行　鳴海中央支店　普通預金 150-425

●郵便振替口座　00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

仲間

「これからも元気に楽しく ワシらしく」

みらいろ　**杉山 健一さん**

杉山さんは養護学校卒業後、他法人の生活介護事業と在宅生活を経験され、「希望の家相談事業所」を介し、2013年リサイクル港作業所に入所されました。31歳の時です。

週2回、半日の利用当時はビンの選別作業、生活介護現場も経験し、2019年7月開所の「みらいろ」初代メンバーとなりました。

今年43歳になる杉山さんは、ご自分のことを「ワシです!」と言われ、毎日、なかまや職員を笑わせてくれます。手先が器用で、破れやすい袋でも商品を丁寧に入れることができます。絶妙な力加減で商品を包み、優しく取り扱えることが最大の魅力です。

資材が無くなると率先して「取ってこよーっと!」と言い、次の仕事に取り掛かります。それに影響を受け、他の仲間も作業に対し積極的な姿が見られます。納品先では「こんにちはー!」と元気よく挨拶することができるので、お客様にとても好評です。

杉山さんといえば〝お笑い〟です。ダチョウ倶楽部の「やー!」や、志村けんの「アイーン!」を全力で披露されるので、周りにいる人はついつい笑ってしまいます。

今は自宅から通っていますが、毎月2泊3日で「ホームみらい」の体験利用もされています。

今後の希望は「お仕事頑張りたい」「プールやる」と元気よく答えています。これからも元気一杯で、仕事も生活も充実していってほしいです。

大峯 穂乃海

袋入れはお任せください！

職員

「ゆたか福祉会との出会いと、これから」

ゆたか作業所　**清水 瑞己**

ゆたか福祉会との出会いは、福祉職の合同就職説明会でした。理念に共感し、施設見学の時には、仲間や職員が明るく笑顔で過ごされているのを見て、「私もゆたか福祉会で働きたい」「仲間の笑顔を大切にしたい」と思いました。

入職して2年目となりました。1年目と同じく「軽作業現場」で日々、仲間と一緒に作業や取り組みを行っています。入職した当初は不安もたくさんありましたが、先輩職員や仲間、援助担当者の方に支えられ、楽しく働いています。

1年目では「仲間との関係を築いていくこと」を大切にしました。日々の作業の中で、仲間が新しい工程に挑戦する時には、思いに寄り添いながら、「どうしたら出来るようになるか」を考え、工夫して進めました。そして「出来た!」の場面の時には、みんなで喜び、たたえ合うことで、仲間の自信になります。笑顔が見られた時には、とても嬉しく感じます。

また取り組みでも、思いを大切にしながら、仲間の意見をもとに、楽しい取り組みを考え、行っています。

これからやっていきたいことは、仲間と共に、一人ひとりが働きやすく、新しい工程にも積極的に挑戦していけるように、働く環境の整備や、新しい自工具の開発、仕事の練習の場面を大切にしていきたいです。

また、仲間とのコミュニケーションの中で、困っていることや悩みにも気づいていけるようになりたいです。スキルアップの為には、必要な資格の取得を目指し、様々な研修にも参加して、知識や学びを深めていきたいと考えています。

仲間と一緒にシーツたたみ